

キリストを現代に伝える人たち ～ナイチンゲール～

ナイチンゲールは、世界の偉人に必ず入るほどの人物ですが、彼女が残した信仰の姿についてはあまり知られていません。

フローレンス・ナイチンゲール(1820-1910)は、敬虔なクリスチャンだったイギリス人の両親のもとに生まれました。17歳のある日、彼女は不思議な体験をします。その時のことがこう書き残されています。「1837年2月7日、神は、私にみ言葉をかけられ、『われに仕えよ』と、語られた」。これが彼女の原体験となりました。やがて、貧困にあえぐ人々が、何も手当てをされないまま命を落としていく様子を、目の当たりにしたり、大好きな家族や友人を熱心に看病するといった体験を通して、彼女は自分にとって神に仕える道は医療だと悟ります。しかし、当時の看護師は、いわば医師の召使いといった扱いを受けていました。それでも、彼女は、家族の猛反対を押し切って、貧困地域で医療奉仕に当たる病院で働き始めました。

1854年、クリミア戦争が勃発します。戦場には野戦病院が設けられ、両軍の負傷した兵士が毎日運び込まれましたが、衛生環境は劣悪で、人手も足りず、悲惨な状況でした。そこにナイチンゲールは赴き、衛生問題の改善から取り組み、敵味方の区別なく、献身的な看護を実践していきました。夜通し患者に包帯を巻き続け、

ランプの灯を手に夜中の病院を巡回する姿は、患者たちの心の安らぎとなりました。病院内の状況は劇的に改善し、死者の数は激減していきました。彼女は、「クリミアの天使」と称され、彼女の功績と共に讃えられました。しかし、彼女はそうしたことには耳を貸さず、看護師としての使命を果たすことに専念しました。

晩年の彼女は、病と戦いながらも、最期は自宅で静かに息を引き取りました。国葬の打診も、彼女の遺志を継いだ遺族が辞退し、墓碑には小さな十字架とFNの頭文字が、刻まれたただけでした。

その生涯を通して、彼女を突き動かしていたのは、神のために生きたいという愛の心でした。“十字架にご自分の命をかけて救いを与えてくださったキリストのように、私も全てをかけて傷ついた人や病む人のために生きる…”。これが彼女の生き方でした。

現代でも、看護学校の「戴帽式」では、ナイチンゲールの教えを基に作成された「ナイチンゲール誓詞」が唱和され、看護師の心構えが胸に刻まれます。このようにして、彼女が実践した愛の心は、今に受け継がれているのです。



羊飼いなるイエス様に信頼して

旧約聖書の詩篇の中で、表現や文体が最も美しいと言われている23篇をご存じでしょうか。その書き出しはこうです。「主は私の羊飼い。私は乏しいことはありません。主は私を緑の牧場に伏させ、いこいのみぎわに伴われます。」いかにも牧歌的な、美しい文章ですね。

羊は臆病な動物だとよく言われます。以前、牧場に行ったとき、羊たちが10頭ほど集まり、身を寄せ合って体をふるわせているのを見ましたが、その様子は、いかにも臆病そうに見えました。また1頭が走り出すと、他の羊たちも同じ方向に走り出すところも見ましたが、付和雷同というような印象を持ちました。

羊は、羊飼いなしで、自分たちだけで生きていくことはできません。良い羊飼いが、愛情を注いで、また責任をもって群れを養っていかなければなりません。私たちは羊のようなものです。ちょっとしたことで怯え、動揺します。人の声に惑わされて闇雲に突っ走ってしまいます。私たちにも羊飼いが必要です。私たちのことを本当に理解し、愛し、責任を

もって導いてくれる良い羊飼いが必要なのです。

イエス・キリストがその良い羊飼いとなってくださいました。イエス様は、私たちをよく理解してくださいます。私たちの弱さを思いやってくださいます。また、イエス様は、私たちを限りなく愛してくださいます。ご自分の命を十字架にお捨てになるほど、私たちを愛してくださいました。そして、イエス様は、私たちを最後まで導いてくださいます。たとい私たちが、失敗が多く、理解するのに時間がかかる者であっても、決して途中でお見捨てにはなりません。

この羊飼いなるイエス様に信頼していくなら、私たちには欠乏がありません。イエス・キリストの十字架を信じて、罪が赦されたら、魂に平安と喜びが与えられ、周囲の環境や置かれている状況がどうであれ、満足することができるのです。

あなたも、ぜひこの良い羊飼いであるイエス様のもとにおいでください。イエス様のもとに求めて来て、失望させられる人は一人もいません。

教会のひとこま 庭が華やぐ季節になりました。



今年の春は気温の高い日が多くて、黄色のモッコウバラがいつもより2週間以上早く、満開になりました。

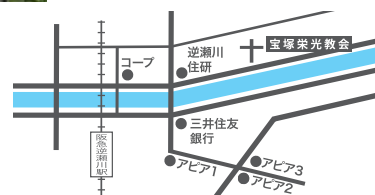
宝塚栄光教会 牧師：岩間 洋

〒665-0021 宝塚市中州1-15-9 TEL:0797-73-6076

E-mail: info@takara-eikou.com https://www.takara-eikou.com

礼拝 毎週日曜日
10:30～11:40

希望のダイヤル(聖書のお話)
0797-77-3746
毎週更新。24時間つながります。
ホームページからも利用できます。





「ポピー」－春の草花－

春の陽が次第に強く射していく頃 次々と美しい花たちが
のびやかに咲き始めていく
この頃 目に飛び込んでくるのは 風にゆれながら
歌っているように見える ポピーである

ポピーは 細長い茎の先に まるで薄い紙を広げて 手作りしたような花である
うつむいていたつぼみが開いて
花が咲いた時は 紙を折りたたんでいたようなしわが見えるのだ
そして 花びらがきれいに開かれていく

この花は 「ひなげし」とか「^{ぐびじんそう}虞美人草」とも 呼ばれている
寒さに強く 暑さに弱い花である
原産は ヨーロッパなど 緯度の高い北半球という
ポピーは 外来種だったのだ
野性のものは 赤い花色だが 園芸種の花は
変化が多く ピンク 赤 オレンジなどの花をつける
本来は 宿根草なのだが
夏の時期 高温多湿の日本では 枯れてしまうので
風の通る 水はけのよい場所に 植えるようにしている

雨も雪も ひとたび天から降れば
むなしく天に戻ることはない
それは大地を潤し 芽を出させ 生い茂らせ
種蒔く人には 種を与え 食べる人には 糧を与える

イザヤ55章(聖書)